

日本のふるさと。自給自足的循環社会

広報 京丹波 12

NO.158 2018.12.17 発行 TOWN KYOTAMBA

晩秋の丹波路を 駆け抜ける

02 食の祭典

03 京都丹波ロードレース大会

04 表彰

05 いきいき健康術

07 まちの話題

12 くるみの会の

お手軽料理レシピ



晩秋の丹波路を駆け抜ける

2018京都丹波 ロードレース大会



11月3日、丹波自然運動公園を発着点に6種目で総勢3498人が、秋の丹波路を駆け抜けました。

京都丹波ロードレースは、前身の丹波高原マラソンから数えると37回目を迎える歴史ある大会で、全国各地から毎年多くのランナーが参加する人気の大会となっています。

ロードレースは3^{キロ}、3^{キロ}ファミリ
1、5^{キロ}、10^{キロ}、ハーフマラソン、50歳
以上のランナー限定のハーフマラソン
の6種目を年齢別など63部門に分け
開催。公園管理棟前で行われた開
式では、一谷徹大会委員長による開
始宣言の後、大会会長である太田昇



一斉に走り始めるランナーたち



丹波路を走るランナーたち

町長が「日ごろの練習の成
果を発揮し、木々の色づき
始めた丹波路の自然と起
伏に富んだコースを楽しみ
ながら交流の輪を広めてく
ださい」と選手を歓迎しま
した。

コース沿いでは、懸命
に走るランナーに地元住
民や給水所で待機するボランティア
の方が温かい声援を送っていました。
発着点となった会場では、食の祭
典でグランプリを獲得した紀陽軒の
「京たんば ぎゅつとつめこみおこわ井」
のほか、丹波の秋の味覚を味わえる

参加者の声

「10年ぶりに京丹波町の道を走りましたが、アップダウンがきついコースですね。でも、風景を楽しみながら走れました。また来年も参加したいです。」

大学生時代に箱根駅伝を走った経験があり、ハーフマラソン男子29歳以下の部1位でゴールした森井悠磨さん（京都市中京区）



レースを完走して記念写真

「うまいもの市」も開催され、ランナ
ーや応援に訪れた人たちは丹波の秋
を満喫しました。

「こだわりの食が大集合」 食の祭典



KYOTAMBA FOOD FESTIVAL

2018



食のまち京丹波町に本町の「食」が一堂に集う秋の恒例イベント「京丹波 食の祭典」が10月21日、丹波自然運動公園で盛大に開催されました。祭典には、京丹波町の食を満喫しようと、約1万2千人が訪れ、秋晴れのもと「食の祭典」は多くの人でにぎわいました。

京

丹波の食材を使ったメニューでNO.1
を競い合う「屋台グランプリ」に8者、
8作品がエントリー。今回のテーマは、京丹波町
産の米と食材をメインとした「井物」。出展者は、
京丹波ポークや大黒本しめじ、京かんざしなど
豊富にある京丹波町の食材を使用した作品を出
展しました。町観光協会岩田恵一会長によるカ
ウントダウンでスタートし、来場者らは早速目当
ての屋台に並び作品を味わいました。
また、会場では、「屋台グランプリ」のほか町内
外から多数のブースが出展し、完売するブースも
あり盛況を博しました。
「屋台グランプリ」の入賞者は次のとおりです。
(敬称略)

屋台グランプリ

👑グランプリ

紀陽軒

京たんば ぎゅつとつめこみおこわ井

👑準グランプリ

京都府立丹波自然運動公園

京丹波しめじを使った

デミハヤソースのオムボール

サンダイコー株式会社 nomado

京丹波地鶏のとり〜り

あんかけ親子丼

京丹波ポーク(株岸本畜産)

京丹波ポーク丼

ス

テージでは、京丹波 味夢くんをはじめとし
た京丹波のご当地キャラクターによるシ
ョーや「ロケ弁」をテーマに京丹波町の食材を使っ
たメニューを考える「あつたらいいな 食の祭典」
アイデアコンテスト」の表彰式などが行われました。
また、京丹波町食材のプレミアム化事業として、
NHK「さよう料理」などに多数出演している
美山荘当主の中東久人さんと自然薯やくりなど
を栽培している町内の生産者によるパネルディス
カッションや、中東さんによる料理教室も行われ
ました。
「あつたらいいな 食の祭典」アイデアコンテス
ト」の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

あつたらいいな 食の祭典 アイデアコンテスト

👑最優秀賞

京丹波バーガー

坂本 恋瑞穂(中)

👑優秀賞

京丹波バーグ弁当

岩崎 未来(須知高校)

サラダカップパン

小林 道幸(水戸)

京丹波おこわずし

安部 松代(神奈川県)

👑特別賞

さくっとおいしい

京丹波のミルフィーユカツカレー

湊 楓華(丹波ひかり小)

お豆たっぷりポリウム満点弁当!!

太田 梨乃(蒲生野中)



料理教室



屋台グランプリ入賞者



いきいき健康術 第136回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

『虫歯はどこからやってくる?』

三浦 博人 所長 和知歯科診療所



虫歯のなりやすさは生活習慣など環境に左右されることがほとんどです。人によって虫歯になるリスクは異なるため、その人にあわせた予防策を講じる必要があります。

虫歯は最初、保護者などの身近な人から「感染」することが多いといわれています。そのため、保護者の虫歯リスクが子どもに影響すると考えられます。

【原因の例】

食事のときに保護者がお箸をつけた食べ物をそのまま子どもが食べることで感染することがあります。

虫歯はどのようにしてできるのでしょうか。



歯の表面は「溶けたり戻ったり」を繰り返しています。

1 食事をすると虫歯菌が食事の中に入っている糖분을栄養に酸をだして歯の表面を溶かします。

2 食後は唾液の力などにより酸が中和され溶けた表面を元に戻そうとする「再石灰化」という作用が起きます。

3 だらだらとお菓子などをつまんでいると、再石灰化する時間がなく、歯に穴があいて虫歯になります。

虫歯を予防しよう。



食事やおやつは時間を決めてメリハリをつけて食べましょう。

食後の歯磨きができないときは、唾液の分泌を促すためにキシリトール配合のガムを噛むと有効です。

再石灰化を促進するためにはフッ素を含有している歯磨き粉を使用するとよいでしょう。



太田町長へ受賞報告をした中野さん(右)



長期にわたり地方自治に貢献された松原さん

表彰 地方自治に貢献
表 元町長の松原茂樹さんに旭日双光章

平成30年秋の叙勲が11月3日に発表され、地方自治の発展に尽くした松原茂樹さん(下山)に、旭日双光章が贈られました。

松原さんは昭和54年4月、住民の推挙を得て丹波町議会議員に当選して以来、平成17年10月までの6期21年の長期にわたり議員として活躍され、平成17年11月から3町合併により発足した京丹

波町の町長に就任し、平成21年11月までの1期4年、地方自治に貢献されました。町長に在任中、平成16年2月に旧丹波町で発生した高病原性鳥インフルエンザに係る跡地利用問題をはじめ、旧3町から持ち越されたさまざまな課題などの解決に尽力され、新町「京丹波町」の礎を築かれました。さらに、懸案であった旧瑞穂町4小学校の統合と新たに発足する瑞穂小

学校の整備やみずほ保育所の建設を推進し、教育環境や保育環境の充実に努められました。「合併後に持ち越された課題の解決には、多くの住民や議員の皆さまのおかげで一緒に乗り越えることができた」と話し、受章について、「皆さまのご支援とご理解があつてこそ、支えていただいた皆さまと共にいただいた思いです」と感謝されました。

表彰 社会教育の振興に貢献
表 中野昭さんに京都府教育功労者表彰

優れた見識と情熱をもって京都府の社会教育の振興に貢献されたとして、中野昭さん(上豊田)に京都府教育功労者表彰が贈られました。

中野さんは平成13年から丹波町社会教育委員を務め、平成17年11月からは3町合併により発足した京丹波町の社会教育委員として活躍。平成21年からは代表を務め、平成25年から京都府社会教育委員連絡会の監事、平成30年から

は京都府南丹地区社会教育委員連絡協議会の会長を務めるなど、優れた手腕と情熱をもって社会教育の振興に尽くされています。

平成23年に発生した東日本大震災により被害を受けた友好町双葉町に地元で収穫したくりや黒豆などの物資による復興支援を3年続けられました。現在は双葉町名物の双葉だるまを題材にした切り絵を届けるなど互いの想いを届ける心の交流に切り替え、継続した活動が行われています。

社会教育は幅広く、子どもたちの登下校の見守り活動もこの一つ、「最初、子どもたちがあいさつできなかったが、今では『おはようございます』『ただいま』と声をかけてくれるようになった。これも社会教育の力だと思う」と中野さん、「社会教育は自分ひとりの活動ではなく、地域の連携が必要です。地域に根ざした活動をして社会教育を町全体に広げていきたい」と意欲を新たにされています。

お茶の間

心と体をリフレッシュ
森セラピー体験会
 森林資源の活用の一環として森林セラピー体験会が11月7日、升谷地内の山中で行われました。町内外から10人の参加があり、参加者は雑踏から離れた自然の中で心と体をリフレッシュさせていました。
 森林セラピーとは、森とふれあい、心身の保養を期待するものです。森林浴を科学的に裏付けたものです。体験会では、森林セラピストの資格を持つ地域おこし協力隊の渡辺晋平さんと森林セラピーガイドの資格を持つ地域おこし協力隊の岩井格を持つ地域おこし協力隊の岩井

悠人さんが森の中を案内し、レジャーマットの上に寝そべったり、落ち葉の匂いを嗅いだりしながらゆったりとした時間を過ごしました。
 参加者は、「癒された」、「ストレス解消になった」、「忙しい日々から開放された気分が有意義な時間を過ごせた」など森とふれあい癒されてきました。
 企画者の一人、岩井さんは「森林に対してニーズがあることが分かった。今後も京丹波町の豊富な森林資源を生かして活用していきたい」と手ごたえを感じ、意欲を新たにしていました。



森の中でゆったりとした時間を過ごす参加者

起業家の精神を学ぶ
須知高校「起業家教育プログラム」
 起業家から企業のノウハウを学ぶ教育プログラムが9月28日から、須知高校で開始されました。
 全国で6次産業化を手がけるコンサルティング会社「MISO SOP」（東京都）を立ち上げた北川智博さんを講師に招き、来年1月までに計6回の授業を行います。
 プログラムは中小企業庁が本年度から全国4自治体と6校で実施しているもので、近畿では同高が唯一選ばれ、食品科学科3年生の26人が

起業家の精神を学んでいます。
 10月22日に行なわれた第3回目の授業で北川さんは、「自分がやりたいこと、一番価値のあるものを考えること、それがどのように社会に貢献できるかを考えることが大切」と話し、「誰に評価されたいか対象をしぼり、自分の考えたビジネスプランの競合を考えることも大切」と商品開発に必要なノウハウを教えるなど生徒が考えたビジネスプランを更に磨き上げるために助言を行いました。
 生徒たちは来年1月まで北川さんとビジネスプランを考えていきます。

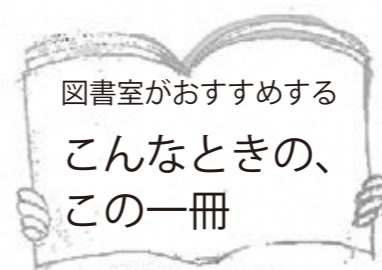


商品開発の説明をする北川さん

「こんにちは赤ちゃん」コーナー 申し込み募集

〈対象者〉
 町内在住で、申し込み時に生後1歳未満のお子さま（申込方法）お子さまの顔写真に申込書を添えて、役場または支所まで、持参・郵送・メールのいずれかで届けてください。申込書は役場本庁、支所、瑞穂保健福祉センターにあります。

【問】
 京丹波町企画政策課
 電話 0771-82-3801
 Eメール kikaku30@town.kyotamba.lg.jp



知っているお話であっても、いくつになっても読んで、見て楽しい昔話。ハッピーに終わるものとさまざまです。

このお話は、福岡や新潟の昔話として伝わっているよう

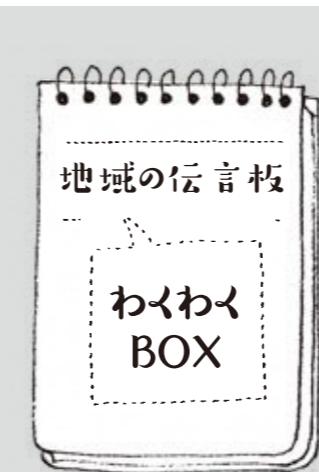
で、多くの作者や画家の作品があります。私は、今回紹介する「はなたれこぞうさま」のあどけなさや厳しさに心惹かれました。

皆さまにも色々な作者によって描かれているこぞうさまに出合っただけならと思います。

他の「はなたれこぞうさま」作品：川崎大治・作 大田大八・画／童話館、長谷川摂子／岩波、千葉幹夫 荒井良一／こどもの童話館

（質美公民館図書室 なかにしやうこ 中西陽子さん）

図書室ご案内 中央公民館（蒲生）、山村開発センターみずほ（大朴）、旧梅田保育所（鎌谷下）、三ノ宮基幹集落センター、質美振興センター、和知ふれあいセンター（本庄） **貸出期間** 2週間 **貸出冊数** 1人1回5冊まで



このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。

はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、情報をお寄せください。匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。（お寄せいただいた情報は随時、掲載します。）

【送り先】
 〒622-0292（住所不要）京丹波町企画政策課広報京丹波「わくわくBOX」係
 ファックス/82-2500 Eメール/kikaku30@town.kyotamba.lg.jp



表彰状を授与される受賞者

障害者の社会参加と自立を目指して
身体障害者福祉大会
 京丹波町身体障害者福祉会主催の第13回京丹波町身体障害者大会が11月16日、京丹波町和知ふれあいセンターで開催されました。
 この大会は、障害について理解と関心を深め、障害者の社会参加の推進と自立意識を高めることを目的に、同会が毎年開催しているものです。
 大会では、オープニングセレモニーでわちエンジェルの5歳児が演奏や歌で花を添えたあと、自立更生者と援護功労者の表彰、6項目の大会決議案の承認が行われました。
 また、「詐欺・悪質商法にご用心！」と題して、消費生活相談員の多田悦子さんを講師に招き講演が行われました。
 受賞者は次のとおり。（敬称略）
第13回京丹波町身体障害者福祉大会会長表彰
■自立更生の部／高橋 一心（鎌谷中）
■援護功労の部／下林 康邦（広野）

まちの魅力伝え一打一響

第19回DONと来い／丹波八坂公演
丹波八坂太鼓保存会による「第19回DONと来い／丹波八坂公演」が11月4日、下山小学校体育館で行われました。

今年も「一打一響」をテーマに五穀豊穡を願う曲や創作曲などを披露しました。また、地域の伝統を受け継ごうと保存会に太鼓を習う下山小学校6年生も堂々と太鼓を打ち



来場者を魅了した丹波八坂太鼓保存会の公演

公演では、約400人の来場者が、打ち鳴らされる太鼓の勇壮な響きに魅了されていました。

おとなの木育

パン窯づくり教室

「おとなの木育」事業として11月17日と25日の2日間、ウッドパルわち(下栗野)でパン窯づくり教室が開催されました。



協力してパン窯を作る参加者

ウッドパルわちにはパン窯が1基ありますが、宿泊者に好評で持ち寄ったパンやピザなどを焼いて楽しま

れており、かねてから増設が望まれていました。この事業は、本町に豊富にある森林資源を活用した、木のぬくもり

ある暮らしを目指す一環として開催したもので、17日の教室には、募集した参加者のほかウッドパルわち管理会の委員ら9人が参加しました。参加者らは、講師の岩田至巨さん(中村)指導のもと、耐火レンガをていねいに積み上げていきました。講師の岩田さんは「積み上げの際、少しのずれが完成したときに大ききなずれとなる。一つひとつついでいねいに」と話されました。

参加した篠島博幸さん(蒲生野)は「パン窯づくりのノウハウを知りたくて参加しました。DIYで木は使えませんが、レンガやモルタルを使うことがなかったのが、扱いがむずかしくなかった。また自分でも作ってみたい」と意欲に燃えていました。

地域住民の親睦深める

北部合同サロン

住民自治組織の京丹波町北部振興会による合同サロンが10月24日、上粟野生活改善センターで行われました。

北部振興会は、運動会や交流会など1集落では人数が少なくできないことを、複数集落で行い、地域活性化につなげようと活動をされています。

合同サロンには高齢者ら約40人が参加し、談笑しながら牛乳パックと折り紙を使った紙皿作りに挑戦したり、体操で体を動かしたりして盛

学びの成果を発表

中学生サミット

町内の中学生が学びの成果を発表する中学生サミットが11月14日、京丹波町中央公民館で開催され、生徒と教育関係者ら約100人が参



町の施策を学び感じたことを発表する生徒たち

加しました。中学生サミットは、生徒の交流や各中学校の特色ある取り組みを共有し、今後の学校づくり



合同サロンを楽しむ参加者

り上がりました。参加者は「来てよかった」、「若返るわあ」と感想を述べ、サロンの時間を楽しんでいました。

などに生かしていこうと、京丹波町教育委員会と町内3つの中学校が主催し、初めて開催されました。3校の3年生9人が、京丹波町ならではの伝統文化や地域学習、部活動などの体験を発表しました。子ども交流事業で友好町双葉町を訪問した瑞穂中学校3年生の田中夢さんは、「あたりまえがあたりまえでなくなることはとても悲しいこと。私たちにはふるさとの土地がある。ふるさとを思う気持ち大切にしていきたい」と改めて感じたことを語りました。

道路をきれいに

ボランティアロード丹波

清掃活動を通して美化意識の向上と美しいまちづくりを目指した活動「ボランティアロード丹波」が10月28日、国道9号の丹波自然運動公園前から京都縦貫自動車道丹波インター付近までの区間で行なわれ、関係者や地元ボランティア133人が参加しました。

ボランティアロード丹波は、地域住民が主体となり取り組んでいる清掃活動で、道路管理者である国土交通省と京丹波町も活動に協力しています。

参加者は、国道沿いの植樹帯や歩道の雑草を引いたり、ゴミを拾い集めたりしました。



植樹帯の草を引くボランティアの皆さん

京丹波食材の魅力を発見

町 食材を使った調理実習

地元食材の魅力を学ぶ調理実習が10月26日、須知高校で行われました。

調理実習では、京丹波町食生活改善推進員(くるみの会)5人を講師に招き、本紙9月号で掲載した「京丹波秋の香り寿し」など3品を調理しました。調理コースを選択している食品科学科3年生の生徒6人が参加し、講師から「京丹波町には豊富な食材があります」と黒豆やくり、本シメジなどの食材の説明がされたあと、食材を色あざやかに見せる切り方や減塩を意識した出汁のとり方などを教わりました。

笠井直樹さんは「減塩のコツなど学ぶことができました。食生活を見直し、減塩のだしのとり方など実践していきたい」と話しました。



くるみの会の方と調理をする生徒



軽食を囲んで和やかに会話をする住民ら

地域の絆育む

上和中部村まつり

上和中部村おこし委員会が主催する「上和中部村まつり」が11月4日、和知第二小学校跡の芝生広場で開催されました。

会場では、ゴム長靴投げや50m走の記録測定などに挑戦したり、グラウンドゴルフでホールインワン回数を競い合ったりしました。また、同委員会を組織する6集落の住民有志グループなどが模擬店を出し、石窯ピザや焼き芋、かやくご飯などを販売。買い求める住民らと和やかに会話をしていました。

同委員会の竹内浩会長(上乙見)は、「平成30年7月豪雨で甚大な被害が出たが、どの区も欠けることなく参加していただいたことに感謝しかない。地域の良さを実感できる環境づくりをこれからも進めていきたい」と話しました。



思いを込めてタスキをつなぐ

心を一つにタスキをつなぐ

京 都丹波キッズふれあい駅伝

京都丹波キッズふれあい駅伝が11月17日、丹波自然運動公園で行なわれ、児童らは思いを込めたタスキをつなぎました。

駅伝では、6人1チームで、7.5キロを6区に分けて走る駅伝競走の部と1.2キロを走る持久走の部が行われ、京丹波町と南丹市、亀岡市の小学校30チームが参加しました。

児童らは他校に負けじと全力で走り、みんながつかないタスキを受け取り懸命に駆け抜けました。陸上競技場の場内では、応援に駆けつけた家族連れなどの応援が響き、児童らの背中を押ししていました。

駅伝競走の部で丹波ひかり小学校が5位に入賞。6区を走った丹波ひかり小学校6年久保元華さん(豊田)は、「みんながつかないタスキなのでベストを尽くして走った。途中つらかったけど、みんなの応援が力になった」と振り返りました。

支え合いにつながる

【双葉町社会教育委員が訪問】
 友好町双葉町の社会教育委員が11月10日から3日間、本町を訪れ、京丹波町社会教育委員と交流を行いました。

双葉町社会教育委員ら7人は11日、道の駅やグリーンランドみずほ、京都トレーニングセンターのほか町文化祭も訪れ、本町の取り組みを視察しました。

12日には役場議場で両委員の意見交換会が行われ、京丹波町社会

文化活動の成果を発表

京丹波町文化祭

京丹波町文化協会と町教育委員会主催の京丹波町文化祭が11月10日から12日まで開催されました。期間中、松山公民館と山村開発センターみずほでは展示の部が開催さ



音楽劇を披露する瑞穂小学校1年生

教育委員の中野昭代表があいさつで「今日までの交流が今につながっている。今後も交流を続けていかなければならないと強く思う」と話し、双葉町教育委員会の橋本仁教育総務課長が双葉町の現状を「帰還困難区域が町の96%を占めているが、今後5年間でJR双葉駅を中心に人が住めるよう除染を進め、避難指示解除を目指します」と報告しました。委員からは「双葉音頭を通して交流できれば」、「文化を学んでつなが

れ、書や写真、絵画などの展示が行われたほか、友好町双葉町のみならずの作品も展示され、一目見ようと訪れる人でにぎわいました。

11日には、山村開発センターみずほでステージの部が行われ、23団体が歌や音楽演奏、舞踊など、日ごろから取り組んできた文化活動の成果を発表しました。

また、10日には、山村開発センターみずほで「京丹波町まちなか映画祭」が同時開催され、府内で撮影された2作品の映画が上映されたほか、「笠置ROCK」を手がけた馬杉雅喜監督のトークショーも行われました。

「助け合いと活力のある健康の里づくり」を目指す

国道9号などの改善を要望

本町は行政推進の柱の一つとして、安心安全な住民生活の基盤整備を行っています。この実現に向けて11月19日、太田昇町長が財務省と国土交通省に対して要望活動を行いま



国土交通審議官の由木さんに要望書を提出する太田町長(右) 財務省主計官の岩佐さんに要望書を提出する太田町長(左)

した。

要望は、京都縦貫自動車道の4車線化の早期着工、京丹波PAから府道松山須知線等一般道への出入りが可能となるスマートインターチェンジの整備、国道9号拡幅(4車線化)の延伸、JR山陰本線園部駅以北の複線化などについて行いました。

太田町長は、国の予算や決算、会計に関する制度の企画や立案などを行う財務省主計局の岩佐理主計官(国土交通担当)と国土交通省の由木文彦国土交通審議官に対して「要望事項の実現に向けてよろしくお願います」と要望書を手渡しました。

何でも挑戦が大事

【瑞穂中学校オリリンピック・パラリンピック講演会】

京都府オリリンピック・パラリンピック教育推進事業が11月9日、瑞穂中学校で元車いすバスケットボールプレイヤーの神保康広さんを講師に招いて行われました。

神保さんは、16歳のときにバイク事故により車いす生活になる。18歳で車いすバスケットに出会い、1992年のバルセロナから4大会連続でパラリンピックに出場、2000年に

「今日までの交流が今につながっている。今後も交流を続けていかなければならないと強く思う」と話し、双葉町教育委員会の橋本仁教育総務課長が双葉町の現状を「帰還困難区域が町の96%を占めているが、今後5年間でJR双葉駅を中心に人が住めるよう除染を進め、避難指示解除を目指します」と報告しました。委員からは「双葉音頭を通して交流できれば」、「文化を学んでつなが

ていきたい」などと両町の住民が一緒に取り組む機会を持ちたいと今後の交流について話し合いました。

また、京丹波町からも太田昇町長ら4人が11月6日から3日間、双葉町や町民が避難生活を送るいわき市などを訪れ、復興を目指す町の取り組みに理解を深めました。双葉町の伊澤史朗町長らの案内で震災の爪あとが残る町役場や駅舎の建設が進むJR双葉駅周辺などを視察しました。

農業の魅力を伝える

【農山村教育民泊】

交流を通して都市部の子どもたちに農山村の魅力伝える農山村教育民泊が11月9日から2日間、一般社団法人京都丹波・食と森の交流協議会の主催で行われました。

民泊には、京丹波町と福知山市三和町で受け入れ家庭があり、京丹波町では5家庭が京都学園中学校の1、2年生を受け入れました。

受け入れ先の野村雅浩さん(保井谷)の家庭に3人の生徒が訪れ、ハウスで栽培している水菜や京かんざしなどの収穫を体験しました。

学生らは「いつもやらないことな

仕事の厳しさを学ぶ

【蒲生野中職場体験】

蒲生野中学校2年生が11月6日から8日までの3日間、町内20の事業所で職場体験学習を行いました。

この学習は、進路学習の一環として、働くことの意義や尊さを理解し、進路や職業について考えることを目的に行われています。

上豊田保育所では2人の生徒が保育士の指導の下、園児と関わりながら普段の仕事を経験しました。

将来保育士になることを目指している岸本綾菜さん(蒲生野)は、「子どもがいつどんな行動をするか



意見交換会の様子(京丹波町役場議場)

ので新鮮で楽しかった」、「野菜に虫がつかない工夫など教えてもらい楽しみながら学べた」と笑顔で話しました。



教えてもらいながら水菜の収穫体験をする生徒



職場体験の様子(上豊田保育所)

分らないので目が離せなくて大変だった。実際体験して保育士の大変さが分かった」と仕事の厳しさを学びました。

編集後記

今年も残すところ約2週間となりました。あつという間の1年でしたが、皆さまのご協力のおかげをもちまして広報紙を発行することができました。来年も地域の情報を届けていきたいと思ひます。新しい年が皆さまにとって幸多き1年でありますように、お祈り申し上げます。 HB

ふるさと応援寄付金のお礼

片山 山治	10万円
宮崎 浩司	1万円

*掲載内容は寄付者の了解を得ています

わたしたちの町

人口	14,268 (-18)
男	6,793 (-11)
女	7,475 (-7)
世帯数	6,320 (-8)

12月1日現在 / () は前月比

黒豆入り伊達巻

おせち料理に定番の
味も見栄えも豪華な卵焼きです。

長崎においてはカステラ蒲鉾かまぼことも呼ばれおやつにもなる一品です。



【材料…… 1巻(4人分)】

黒豆(甘煮) …50g	砂糖…大さじ3
はんぺん…70g	塩…小さじ1/2
玉子(M)…4個	みりん…大さじ1
サラダ油…少量	だし汁…大さじ3

1人分の栄養価

熱量	209kcal
たんぱく質	12.9g
脂質	9.3g
カルシウム	61mg
食物繊維	2.1g
塩分	1.4g

食生活改善推進員は「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、食生活を通して健康づくりに取り組んでいます。
(掲載月6・9・12・3月)

【作り方】

- ① はんぺんを一口大にちぎってミキサーにかける。
- ② ①に玉子を割り入れ、さらにミキサーにかけ混ぜ合わせる。

- ③ ②をボールに入れ、分量の調味料とだし汁を加えて泡立て器でよく混ぜる。

- ④ 熱した玉子焼き器に薄く油を引き、③の玉子液を全部流し入れ、黒豆煮を均等に並べてから蓋をして極弱火で約20分焼く。

- ⑤ 表面が固まればひっくり返して更に片面を約5分焼く。

- ⑥ 熱いうちに巻き簾に広げ手前から巻いていき、両端と真ん中の3箇所を輪ゴムで止めてそのまま置き冷まします。

- ⑦ 巻き簾からはずして、8等分に切り器に盛りつける。

*一般の卵焼き器でする場合は2回に分けて作ってください。
*黒豆(甘煮)の甘さで砂糖の量は調整してください。

